

# オピニオン

## 介護福祉士確保へ期待

### 提言

最上広域8市町村のサポートを受け、県内で3校目、最上地域では初となる2年制の介護福祉士養成校が4月、新庄コアカレッジとして開校した。これまで最上地域には介護福祉士の養成校がなく、介護福祉士を目指す高校生は仙台、新潟、東京を中心とした他地域に行かなければならなかった。そのため、介護福祉士を志望する高校生らの保護者の経済的負担は決して軽くはなかった。そんな背景もあり、養成校設置は、地元の高校や介護施設などから強く望まれてきた経緯がある。

本県は総人口に占める65歳



最上広域コア学園新庄コアカレッジ  
介護福祉科 教務主任

北川 康美

以上の割合が28%を超え、超高齢社会に向かっている。要介護認定者も急激に増加しており、それに伴い介護に携わる専門職である介護福祉士の需要も高まりを見せている。

県策定の介護サービスの指針などを盛り込んだ「やまがた長寿安心プラン」には、良質なサービスを支える人材の養成と確保が課題とされている。今後、介護福祉士養成校と

要介護高齢者の心身の要介護度は重度化していることも関係し、これからはいかに介護を予防するかという視点も大切になっている。

今後、介護福祉士養成校と関、行政、介護施設と連携し、人材を確保することだ。介護職の魅力と必要性を発信し、介護福祉士養成を中心としながら教育福祉活動の拠点を

そういった側面もあり、今や介護は家族内のみで対応する時代ではなく、介護施設や事業所が増え続けている。しかし、一方で介護福祉士の需要があるにも関わらず、介護福祉士を目指す若者

しさが必要だが、それだけでは専門の介護従事者にはなれない。知ってほしいのはプロ意識の大切さ。その上で若者たちには介護に関心をもち、専門職を目指して入学してくれることを期待している。

### 最上初の養成校開校 ■ 超高齢社会を支える「人材」

(新庄市在住)